

## 第2回 さいたま市都市再生整備計画事後評価委員会 議事要旨

日時	平成28年1月26日（火）午前10時00分～午前11時30分
場所	さいたま市役所議会棟 第4委員会室
出席者	<p>[委員]計5名 大沢委員／桑田委員／増井委員／江森委員／金子委員</p> <p>[事務局]さいたま市 まちづくり推進部：河本部長／宮寺次長 まちづくり総務課：篠崎課長／岩田企画調整係長／井口主任／多々野主任／二連木主任／山田技師 コミュニティ推進課：平野課長／自転車まちづくり推進課：西岡課長／市街地整備課：本多課長／日進・指扇周辺まちづくり事務所：大塚参事兼所長／浦和東部まちづくり事務所：濱田参事兼所長／浦和西部まちづくり事務所：松本参事兼所長／浦和駅周辺まちづくり事務所：柳澤技師／道路計画課：清水課長</p> <p>[傍聴]0名</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 委員名簿</li> <li>・ 資料1     さいたま市都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱</li> <li>・ 資料2     事後評価の実施に向けたスケジュール</li> <li>・ 資料3     都市再生整備計画事後評価に向けた現地視察会の概要</li> <li>・ 資料4     都市再生整備計画事後評価シート（案）</li> <li>・ 参考資料 事後評価シートの修正と指標の設定について</li> </ul>

### <議事内容>

#### 1 開会

#### 2 議題

- (1) 現地視察会の概要について
- (2) 事後評価シートについて
- (3) その他

#### (1) 現地視察会の概要について

(委員長：桑田委員)

- ・ 現地視察会での感想や意見は、「議題（2）事後評価シートについて」の際に合わせてご発言いただきたい。

#### (2) 事後評価シートについて

##### ●浦和駅及び武蔵浦和駅周辺地区

(委員長：桑田委員)

- ・ 目標達成度に関して、第1回委員会から変更はないか。

(事務局)

- ・ 目標達成度についての変更はない。
- ・ フォローアップに関しては、目標値を満足した指標についてフォローアップをする必要はないと判断し削除している。

(増井委員)

- ・駅周辺の拠点性を高める点では、駐輪場等の整備により、駅周辺に人が集まりやすくなったと数値的に評価できるのではないか。

(事務局)

- ・駅周辺の拠点性として、駐輪場等の利用台数等の数値を用いることが可能か検討する。

(増井委員)

- ・武蔵浦和駅周辺地区ではサウスピアを中心に、地域活動が行われている。地域の魅力を発掘するような取組は、地域の愛着にもつながり、評価できる。

(事務局)

- ・ご意見のような取組の状況を確認し、記載内容を検討する。

(増井委員)

- ・浦和駅の高架下空間の活用について、非常に評価できる。今後、他の地区にも生かしていくべきと思われる。

(事務局)

- ・ご意見を参考に、今後、他の地区にも生かしていきたいと考える。

(大沢委員)

- ・指標1「地区内主要道路の旅行時間」において、都市計画道路道場三室線（2工区）は都市再生整備計画事業の交付期間内に完成する予定だったのか。

(事務局)

- ・当初の予定では、当事業の交付期間内で新大宮バイパスまでの開通を目指していた。

(大沢委員)

- ・事業が遅れた要因を説明していただきたい。

(事務局)

- ・都市計画道路道場三室線（2工区）は、現在約1.2kmを事業中である。
- ・事業が遅れた主な要因は、地権者等の交渉や、地区内にある水路等の付け替えに時間を要していることなどである。
- ・現在の事業認可期間は、平成31年度までである。

(大沢委員)

- ・事業が遅れた要因や引き続き事業を進めていくことを効果発現要因に記載した方が、市民に分かりやすいのではないか。

(事務局)

- ・事業が遅れた要因の記載方法を検討する。

(大沢委員)

- ・指標1「地区内主要道路の旅行時間」は、目標値を満足しており、効果発現要因では事業が遅れた要因も含め、今後進めていく旨の記載をしているため、フォローアップを行わないことは納得できる。

(大沢委員)

- ・浦和駅の乗車人員が、交付期間内で約5,000人増加している。湘南新宿ライン等のホームの設置による効果と捉えて良いか。

(事務局)

- ・浦和駅の乗車人員の増加については、湘南新宿ラインのホームを設置した影響は一つの要因であると考えている。

(江森委員)

- ・新大宮バイパスまでの都市計画道路道場三室線（2工区）の事業期間が平成31年度までとなっている。新大宮バイパスまで開通した場合、周辺地区の利便性や回遊性などが向上するため、事業期間内で完了するよう重点的に事業を進めてほしい。

(事務局)

- ・都市計画道路道場三室線（2工区）は、市の骨格となる道路である。新大宮バイパスまで開通することにより渋滞の緩和に十分効果を発揮できることから、市としても積極的に整備を進めていきたいと考えている。

## ●浦和東部地区

(金子委員)

- ・指標2「浦和美園駅乗車人員」について、フォローアップの内容と予定時期の理由を教えてください。

(事務局)

- ・駅乗車人員は、埼玉高速鉄道からの情報提供に基づき、前年度を評価値としている。
- ・今後は、平成28年1月に供用開始した複合公共施設の効果発現で駅乗車人員も増えると見込んでおり、平成28年度の乗車人員の実績をフォローアップすることとし、フォローアップの予定時期を乗車人員が公表される「平成29年8月時点」とした。

(金子委員)

- ・持続的なまちづくり体制の構築について、「美園タウンマネジメント協会」と「みその都市デザイン協議会」が連携し、地域ブランド力の増進を進めていくと記載があるが、何をもちょうブランドディングしていくのか。例えば、スポーツを基点とするのか、それとも新しく何か価値を創造するのか、教えてください。

(事務局)

- ・埼玉スタジアムの活用、コミュニティ等、様々な美園地区の個性を創出するにあたり、「美園タウンマネジメント協会」と「みその都市デザイン協議会」において街のあるべき姿を整理し、実現していくことが街の個性になり、ひとつのブランドになっていくと考えている。

(委員長：桑田委員)

- ・土地区画整理事業と関連して質の高い住宅地の形成など、ブランドの方向性を記載すると分かりやすい。

(事務局)

- ・可能な範囲で具体的に記載したいと考える。

(大沢委員)

- ・指標の評価値の時点とは、その時点の数値で評価するものである。指標2「浦和美園駅乗車人員」のフォローアップの予定時期は、その時点に行うものとなっており、評価値の「時点」とフォローアップの予定時期の「時点」は意味が異なるため、フォローアップの時期は「平成29年8月」とした方が良い。

(事務局)

- ・ご意見を踏まえ、時期の表現を検討する。

## ●指扇駅周辺地区

(委員長：桑田委員)

- ・指標2、指標3の目標達成度を「×」から「△」にした理由について、説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・指標2「踏切自動車交通量」は、指扇駅北口駅前広場や市道32223号線が整備され、地区の北側から南側

への自動車交通量は調査結果から減少したため、目標達成度を「△」に見直した。

- ・指標3「道路整備や鉄道サービス等の充実への満足度」は、指扇駅の橋上化に伴いバリアフリー化が図られた南北自由通路や北口駅前広場、市道32223号線を整備したため、駅の利便性や駅へのアクセス性は明らかに向上しているため、目標達成度を「△」に見直した。

(委員長：桑田委員)

- ・指標3「道路整備や鉄道サービス等の充実への満足度」において、総合所見の冒頭に市民意識調査の対象範囲が記述されている。市民意識調査を用いて満足度を評価していることが分かりにくい。

(事務局)

- ・文章を再度見直す。

(大沢委員)

- ・参考資料のグラフにおいて、自動車交通量が増加した原因は、地区の南側から北側への自動車交通量であり、北側から南側への自動車交通量は約110台減少している。北側から南側への自動車交通量の減少を効果発現要因に記載することで、その他の指標「小型車自動車類の踏切自動車交通量（北側から南側方向）」の減少と合わせ、目標値は満足しなかったが効果は出ていると伝わるのではないかと。

(事務局)

- ・効果発現として減少している部分もあるため、市民に分かりやすく、その他指標につながるように文章を再度見直す。

(増井委員)

- ・第1回委員会時に、指扇駅周辺地区で駅のバス路線が新設された話があったと思う。北口駅前広場が新たに整備され、交通の利用は良くなり、バス乗降場も新設されたことでよいか。

(事務局)

- ・指扇駅周辺地区に関しては、バス乗降場の移設はあったが、新設のバス路線はない。

(増井委員)

- ・移設も北口駅前広場が整備され、うまく活用できるようになったことにつながるため、定性的な表現にて評価した方がよい。

(増井委員)

- ・指標3「道路整備や鉄道サービス等の充実への満足度」の結果は、アンケートの取り方の問題であり、母数は少ないが、指扇駅利用者の満足度が上がったことは、記載した方がよい。

(事務局)

- ・市民意識調査のアンケート結果を再度確認し、可能ならば追記したい。

(江森委員)

- ・市民意識調査は、市民の意見を把握するには良い方法である。これ以外の調査方法はないのか。

(事務局)

- ・当初計画で設定した際に、市民意識調査の手法で目標値を設定していた。現時点で、他の調査方法は考えていない。

(江森委員)

- ・バス乗降場の移設について、浦和東部地区ではバス乗降場の移設で運行時間が2分短縮し、利便性の向上に寄与しているとあった。共通の指標があれば、市民にはわかりやすい。

(事務局)

- ・浦和東部地区と同様に指扇駅周辺地区についても、駅前広場を整備している。バスの運行時間を調べ、効果発現の状況を確認する。

(江森委員)

- ・事後評価委員会の最終的なエビデンスが今回の委員会と思う。最終的には市民が見るということになるため、エビデンスに対するツールの出し方と、記載方法にある程度統一性があると市民に対して分かりやすい。

(事務局)

- ・指扇駅は、市民意識調査を使用した。今回の事後評価委員会を踏まえ、今後、新たに都市再生整備計画を作成する際には、市民に分かりやすい指標や根拠などを整理した上で、目標値を設定していきたい。

## ●全般

(増井委員)

- ・現地視察を行い、都市再生整備計画事業は、市が目指す施策の実現に向けて事業を推進しているものと改めて感じた。特にさいたま市は、駅周辺の拠点づくりを施策で打ち出しており、視察した2地区は、駅周辺の拠点性が高く、自転車施策など市の目指す方向を実現するため、国の当事業を上手く活用していると感じる。

(委員長：桑田委員)

- ・今回、公共交通の拠点整備における議論が出たが、公共交通とのつながりが改善され、それがコンパクトシティのような市の施策を後押ししているような書き方を各地区もう一度見直して書き込んでほしい。

(事務局)

- ・事務局の方で再度検討する。

(金子委員)

- ・指標の目標達成度が「△」のもので、フォローアップの有無が異なる。「△」は、目標達成できなかったという解釈であり、そのまま放置するのかわという見方もされてしまう。「引き続き行う」など何か記載に工夫をお願いしたい。

(事務局)

- ・浦和駅及び武蔵浦和駅周辺地区の「旅行時間」は、目標値を満足しているため、通常であれば目標達成度は「○」になる。しかし、都市計画道路道場三室線（2工区）は引き続き整備をしていくことから、目標達成度を「△」とし、フォローアップは必要ないと考えた。
- ・指扇駅周辺地区の「踏切自動車交通量」は、当初に設定した目標値の中に小型車と大型車両方が含んでいた。指標の設定が変えられないことと小型車みの自動車交通量は減少していたことから「△」とし、フォローアップは必要ないと考えた。
- ・指扇駅周辺地区の「道路整備や鉄道サービス等の充実への満足度」は、市民意識調査において指扇駅利用者以外の方も対象として含んでいたため、目標値としては満足していない。しかし、現状は、バリアフリー施設を備えた南北自由通路や北口駅前広場整備など、確実に駅利用者にとって利便性やアクセス性が向上していることから、今後、満足度は増加していくと考え、「△」とした。

(委員長：桑田委員)

- ・フォローアップの有無で、例えば指扇駅周辺地区の踏切自動車交通量では、目標値を達成できなかったという書き方でなく、地区の北側から南側への自動車交通量が減っていることを書き加え、効果が発現されていることを書く必要がある。

(金子委員)

- ・事後評価を行って終わりという印象があり、目標値が達成できなかった「△」に対してのフォローアップ

の記載として、例えば推移を見守りながら対応するというような記載をするとなお良い。

(事務局)

- ・事務局の方で再度検討する。

(増井委員)

- ・今回の事後評価を生かし、新たな事業を始める際にはどのような調査をするべきか事前にしっかり設計しておくとうい。
- ・浦和駅及び武蔵浦和駅周辺地区に記載されている、「地域の住みやすさ」は漠然としている指標であり、何を指しているのか、何に対して満足しているのか分からないため、今度の対策も図れない。
- ・事業に対する市民の意見や声を聞くことを今後も継続して、まちづくりに活かしてほしい。

(事務局)

- ・今後、計画を作成する際は、直接市民の声を聞く事前調査を実施し、事後評価においても利用者に直接意見を聞くなどの体制を整えたい。

(大沢委員)

- ・浦和東部地区の複合公共施設が当事業において整備され、様々なサービスを受けることが可能になったと市民が理解できるような、都市再生整備計画の優位性をアピールできたら良い。

(事務局)

- ・今回の事後評価では市民が体感した結果を盛り込めていない。今後は事業前についても市民の声を聞き、事業後も市民が施設を利用してどう感じたかを聞き、整理した上で定性的な評価に生かしていくことも今後の検討課題と考えている。

(江森委員)

- ・新たな計画を作成する際は、事業が市民に対してどのように享受されるのかなどを考えた上で、指標項目の検討などを行ない、作成していただきたい。

(事務局)

- ・今後、新たな計画をつくる際に検討する。

## ●その他

(委員長：桑田委員)

- ・事後評価シート案の修正は、委員長と事務局で最終的に調整したい。
- ・最終的な修正等については委員長預かりとさせていただくことでよろしいか。

(各委員)

- ・了承。

## (3) その他

(事務局)

- ・事後評価シート案の修正は、委員長と事務局にて調整し、とりまとめ次第、各委員へ送付する。
- ・議事要旨は、後日送付し、内容の確認をお願いする。